

(法第 28 条第 1 項関係様式)

令和 2 年度事業報告
令和2年 1 月 1 日から令和2年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 五環生活

1. 事業の成果

概要

第 15 期(2020 年 12 月度)は、レンタサイクル事業を中心に据え、主要事業としての維持と発展に努めながら、安定的に持続可能な組織づくりのために新たな事業展開と創出を行う計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたため、レンタサイクル事業の売上は昨年比 71.87%となった。他に、大口のサイクリングツアーやイベント系の委託事業の大半がキャンセルされたため、サイクルイベント事業、コンサルタント事業ともに見込んだ収入が得られず厳しい状況となった。しかし、年度後半の世情の回復により追加の委託事業を受けたことや、助成事業への参画や国の給付金・助成金の給付を受けることが出来たことで、なんとか今期を乗り越えた。

1) 自転車タクシー運営事業

第 12 期に事業休止とした。車体が場所をとるため、解体処分した。

2) レンタサイクル運営事業

2-1 概要

「びわこ一周レンタサイクル」では、冬季休業期間中に新型コロナウイルス感染症が流行したが、感染症対策を講じて 2020 年 2 月 22 日に営業をスタートした。3 月の利用は、春休み最初の三連休(2020 年 3 月 20 日～22 日)をピークに昨年 3 月と同程度の規模で盛況であった。しかし、この三連休後に全国でコロナ感染が拡大し、4 月に政府が緊急事態宣言を発令した影響で、レンタサイクルの予約キャンセルが相次いだ。予約の激減でその後の営業の見通しが立たなくなり、当面の間臨時休業とした。臨時休業は、4 月 7 日から 5 月 29 日まで 53 日間行った。この臨時休業は独自で判断して行ったのではあるが、滋賀県の休業要請対象として休業協力金が給付されない理由として、レンタサイクル業が観光業ではなく公共交通事業者の分類に入るためと説明された。法律上の分類であるとはいえ、ビワイチサイクリングで観光振興を謳っている滋賀県の扱いとしては残念に感じた。5 月 30 日より営業を再開したが、すぐに利用客が戻ってこないことを予測して 6 月は火曜日から木曜日まで休業とし、週末前後に営業した。また、6 月以降も、予約がなく、且つ雨天予報で当日飛び込みの可能性もない場合には臨時休業日とするなどして人件費を節約した。利用客の戻りとしては、7 月後半の三連休をきっかけに徐々に回復し、秋にかけては、自粛の反動による人の動きの活発化や週末の好天も後押しして、前年同月に及ぶ利用数があった。

2-2 利用者

前年と比べ、利用者数は約 1,000 人減少し、1,483 名であった。利用者の多い都道府県は、1 位大阪 (22.7%)、2 位滋賀 (17.3%)、3 位愛知 (10.3%)、4 位京都 (9.3%)、5 位兵庫 (8.4%)、6 位東京 (7.9%) で、その他は各 5%未満、富山、島根、鳥取、香川、佐賀、熊本、山形、秋田、青森は 0 であった。外国人利用は、2 月にオランダからの旅行者 2 名の利用を最後にインバウンド観光客は途絶えた。国内利用に含めているが、在日外国人の利用は 21 組あった。年齢層別利用は、10 代 35 組、20 代 147 組、30 代 46 組、40 代 27 組、50 代 27 組、60 代 23 組、70 代 6 組の他、子どもを含む家族連れは 22 組、不明 327 組という結果になった。新型コロナウイルス感染症に関して、若年層は例え感染しても軽症で済むという報告がされたため、初期より若者は比較的身軽に行動していたこと、若者であるほど活動欲求が強かったことが、レンタサイクルの利用者層に 20 代がとくに多くみられたことに表れている。

2-3 米原駅サイクルステーション整備および管理運営に関する協定書

平成 28 年 (2016 年) に「米原駅サイクルステーション整備および管理運営に関する協定書」を締結して 5 年になり、令和 2 年 (2021 年) 3 月 31 日で協定期間が終了するに当たり、協定の更新にかかる協議を米原市地域協働課と行った。これに関する動きとして、米原駅自由通路内の消防法に則り、米原駅サイクルステーション事務所の屋根を取り外し、防虫ネットを天井に張った。米原市役所新庁舎工事に伴い東口駐輪場及び通路が解体され、西口へ通り抜ける地下道へのアクセスは国道からの迂回を必要とした。工事終了後は再び通行可能の見込みとのことで仮の道標が設置されることもなかったため、利用客へは口頭で説明した。現スタッフ駐車場は米原市の土地を許可を得て使用しているが、2021 年 4 月に公売に出る可能性があるとの通知があった。

2-4 「滋賀県民レンタサイクル利用助成事業」と「滋賀県スポーツサイクルレンタル助成事業」

滋賀プラス・サイクル推進協議会の両助成事業を、びわこ一周レンタサイクルも参画した。

両方とも、コロナ禍で利用者が激減したにもかかわらず休業補償の対象とされない県内のレンタサイクル業者に向けた救済措置でもある。

「滋賀県民レンタサイクル利用助成事業」は、2020 年 6 月 1 日から 9 月 30 日までの県内のレンタサイクル利用料金を最大半額まで助成するもの。県民に対しては、仕事の休業やリモートワーク化、休校等で運動不足やストレスを抱えつつあったところを、レンタサイクル利用料金を最大半額で利用できることを PR することで、サイクリングが運動不足やストレス解消に有効であることを気づいてもらい、ひいては、県内で出来る最大のアウトドアアクティビティとしてのピワイチサイクリングに注目してもらおうねらいもあった。びわこ一周レンタサイクルで利用があったのは、期間中利用者総数 553 名中 81 名で、助成金額は 344,700 円であった。

「滋賀県スポーツサイクルレンタル助成事業」は、2020 年 10 月 24 日から 11 月 30 日までの期間中、県内外居住地は問わず全ての利用者に助成されるものとして実施された。コロナ感染が落ち着き、人々が感染対策を施しながら再び自由に移動しだした秋に、更なる利用を呼び込み、春の経済的落ち込みを挽回出来るように追加助成された。びわこ一周レンタサイクルでは、期間中の利用者は 440 名で、助成金額は 1,578,510 円であった。

2-5 輪の国びわ湖推進協議会自転車通勤体験車体リース

(一社) 輪の国びわ湖推進協議会が滋賀県交通戦略課の「滋賀県自転車通勤体験事業」を受託し、びわ

こ一周レンタサイクルが、この事業に使用する車体を購入・整備リリースする作業を受注している。2019年度からの継続事業で、毎年、数台の使用車体が体験者によって購入されている。とくに2020年は、コロナ禍において公共交通からマイカーや自転車通勤へのシフトが推進された機運もあり、格好の事業であったとも言える。

3) サイクルイベント事業

3-1 概要

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で軒並みイベントがキャンセルされる中、サイクリングイベントも例に漏れず中止となり、例年であればツアーガイドやツアー車体を提供している春の花見サイクリングツアーやH&S(平和堂&サントリーフーズ)の「親子ビワイチ体験」イベントなども取りやめとなった。感染拡大が落ち着いてきた年度後半には、感染対策を講じた上でいくつかのイベントは決行された。

3-2 近江ツーリズムボードモニターツアー

(一社)近江ツーリズムボードが主催したモニターツアー「そのぼ kitchen」は9月5日と11月14日の計2回行われ、ツアー車体はレンタサイクルめぐりんこから、サイクルガイド4名とサポートカー(1回目のみ)を五環生活から提供した。

3-3 新木産業ライドイベント

新木産業株が主催した「奥琵琶湖オータムライド2020&北国街道スウィーツライド」は11月21日～23日の3連休で行われた。新木産業株が初めて企画実施するサイクリングイベントだったため、かつてびわ湖一周ロングライドイベントに携わってきた経験から、企画時よりアドバイザーとして関わり、当日もサポートライダーやツアーガイドの統括を担った。

上記の両イベントには、五環生活のスタッフの他、五環生活会員2名も活躍した。

4) コンサルタント事業

4-1 滋賀プラス・サイクル推進協議会

これまで「滋賀プラス・サイクル推進協議会」の事務局を、輪の国びわ湖推進協議会やビワイチ推進室含む滋賀県各課とともに担っていたが、2020年3月末に籍を外した。その後会員として継続して関わる手続きを踏まなかったため、会員として情報共有されることはなかった。外部企業として委託を受けたのは、ビワイチ推進室の予算で行われた「ビワイチプラス応援イベント」としての『女性・親子連れをターゲットとしたサイクリング体験機会の創出業務』のみにとどまった。この他にも企画されていた事業が複数あったが、多くがサイクリングイベントやサイクルツアーの分類であったため、コロナ禍において開催不可能となり、実施に至らなかった。受託した『女性・親子連れをターゲットとしたサイクリング体験機会の創出業務』は、11月29日に希望ヶ丘文化公園にて実施した。好天に恵まれた上、想定以上の人気を集め、大盛況であった。

4-2 『びわ湖の素・米原』サイクルツーリズム補助金

当初『びわ湖の素・米原』グルメライドを3年間毎年実施する計画で予算組された補助金であるが、同内

容での3年目の実施が困難となった。そこで、補助金の趣旨は変えずに内容を変更した代替イベントを事業名「MAIBARA Autumn Fes チケット」として2020年9月12日から12月13日まで実施した。コロナ禍においても実施できる事業として、米原市内20店舗でのみ期間限定で使える割引チケット『米原秋たびチケット』を250部(1000枚)作製・販売し、参加者が米原市を訪れ、市内のサイクリングを楽しむきっかけの創出をねらった。4枚綴り2000円分のチケットを1000円で購入することが出来るお得感が後押しし、9月1日に発売して9月16日に完売した。最も使用枚数が多かったのは9月(334枚)で10月(214枚)と11月(232枚)は同程度、12月(188枚)は13日間しかなかったにしては駆け込み利用で多く使われた。最終的に使用されたチケット枚数は、968枚で、部数にして242部、金額にして484,000円が市内20店舗で使用された。補助事業として、補填分を販売額と同額の設定をしてお得感を出し成功したが、同じことを自主事業として実施するのは難しい。今回、少なくとも、米原市を中心に巷で話題を呼び、米原市内で楽しもうという機運を生み出すことが出来たことは、事業の狙い通り実績となった。

4-3 彦根市レンタサイクルめぐりんこ

2020年3月末まで、京橋口サイクルステーションの定休日は水曜日のみであったが、利用実績からの見直しが行われた結果、2020年4月より火曜日と水曜日の週2日定休を設けることとなった。

新型コロナウイルス感染症が流行して全国に緊急事態宣言が発令された時も、彦根市の指示のもと、彦根駅前サイクルステーション、京橋口サイクルステーション、河瀬駅前サイクルステーションのいずれもスタッフ出勤の上、開店休業とした。貸出再開後の感染症対策として、スタッフのマスク着用、消毒液の設置、1組ずつの入店、貸出車体の消毒を行った。彦根市レンタサイクルめぐりんこでも、夏から秋にかけて例年に近いような利用があった。とくに2020年10月10日～11月23日にかけては、市内で「BIWAKO ビエンナーレ2020」が開催され、そのリーフレットにレンタサイクルめぐりんこの情報が掲載されたため、このイベント目的の観光客の利用も多かった。

4-4 鉄道を活かした湖北地域活性化協議会コラボキャンペーン

鉄道を活かした湖北地域活性化協議会とのコラボレーション企画「鉄道を利用して地域を活性化しよう!」は10月13日～12月15日の間の米原駅サイクルステーション利用者を対象に実施した。利用者全員に協議会ロゴマークの入ったタオルをノベルティとして配布したほか、サイクリング中の写真を「#北びわこに行こう」をつけてSNS投稿した利用者には協議会ロゴとびわこ一周レンタサイクルロゴを付したオリジナルデザインボトルをプレゼントした。タオル500枚とオリジナルボトル400個を作成し、タオルは全て配布、ボトルは185個配布することが出来た。

4-5 湖東周遊促進事業(サイクル周遊促進事業)

びわこ湖東路観光協議会の令和2年度「着地型観光推進事業」のひとつ「湖東周遊促進事業(サイクル周遊促進事業)」を受託した。周遊促進の手法として、これまでのマップ作成・モデルコース提案やガイド付きサイクルツアーの展開に加え、個人型のサイクル周遊プログラムを造成し、個人やグループで自ら周遊してもらう機会提供の要望があった。結果的に、コロナ禍においても有効な周遊促進の手法であったため、問題なく実施することができた。「KOTOSPOT」では、協議会が選定した1市4町の15スポットを落としたマップと各スポットのフォトカードを作成した。フォトカードには、各スポットを説明するオリジナルAR動画を見ること

のできる QR コードを付している。参加者は、レンタサイクルめぐりんこでマップ掲載のスポットを巡りながら各スポットで記念撮影をし、撮った写真をめぐりんこ拠点で提示したら撮影スポットのオリジナルフォトカードがプレゼントされる。撮影したスポットを SNS 発信した場合には、さらにフォトカードがプレゼントされる。2020 年 11 月 1 日から開始し、2021 年 3 月 31 日まで実施するが、情報発信の不十分さと、プレゼント内容が条件の割に魅力に欠けたようで、11 月のレンタサイクルめぐりんこの利用者数に比して参加者が少なかった。これを受け、彦根市の担当者と協議し、プレゼント条件を変更した。変更した結果、12 月は 11 月の 2 倍の利用があった。

5) 五環カフェ(情報交流の場づくり)・五環ワークショップの企画運営事業

例年県立視覚障害者センターと協力し実施しているまっくらカフェは、出展先のひこね人権のまちづくりフェスタがコロナ禍により開催されなかったことで今年度は未催行である。

6) 五環生活に関する商品の開発・普及啓発事業

レンタサイクル事業「びわこ一周レンタサイクル」においては、専用 WEB サイトや SNS (Facebook、Instagram) 上で事業や活動の紹介を随時更新し、ファン層の拡大に努めた。「MAIBARA Autumn Fes チケット」事業も「びわこ一周レンタサイクル」のページで広報したことにより、より多くの人々への周知や新規フォロワーの開拓にもつながった。

7) その他

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、五環生活の主要自主事業であるレンタサイクル事業の事業収入が激減したため、経営基盤が危ぶまれた。経済産業省の持続化給付金を申請し、給付された。また、スタッフを休業させながらも雇用維持をはかる必要があったため、厚生労働省の雇用調整助成金(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例)を申請し、休業手当の助成を受けた。

五環生活役員の任期満了に伴い、役員改正および理事の役割に関して定款変更を行った。定款変更は、県の指導のもと年内に完了した。

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人数	収入額(千円)
自転車タクシー運営事業	事業休止	休止		0名	通常運行: 0名	0
レンタサイクル運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・びわこ一周レンタサイクル 4/7～5/29の臨時休業期間を除いて、コロナ感染対策を講じながら営業。県のレンタサイクル助成金に参画。 ・(一社)輪の国びわ湖推進協議会「滋賀県自転車通勤体験事業」車体リース(車体手配・整備) 	通年	県内 湖岸沿いを中心とする地域	4名	びわこ一周レンタサイクル利用: 1,503台 ・自転車通勤体験参加者: 16名	16,401
サイクルイベント運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)近江ツーリズムボード「そのぼ kitchen」モニターツアー 9/5、11/14(サイクルガイド、サポートカー) ・新木産業(株)「奥琵琶湖オートムライド 2020&北国街道スイーツライド」11/21～23(アドバイザー、サポートライダー統括) 	通年	県内	3名	<ul style="list-style-type: none"> ・「そのぼ kitchen」モニターツアー参加者: 40名(2回合計) ・ライドイベント用キッズバイク利用: 5台 	594
コンサルタント事業	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀プラス・サイクル推進協議会『女性・親子連れをターゲットとしたサイクリング体験機会の創出業務』11/29(イベント企画運営) ・『びわ湖の素・米原』サイクルツーリズム補助金「MAIBARA Autumn Fes チケット」9/12～12/13(イベント企画運営) ・彦根市レンタサイクルめぐりんこ R 元年度[2020/1/1～3/31] R2 年度[2020/4/1～12/31](レンタサイクル管理運営) ・鉄道を活かした湖北地域活性化協議会とのコラボ企画 10/13 	通年	県内	6名	<ul style="list-style-type: none"> ・ビワイチプラス応援イベント参加者: 135名 ・MAIBARA Autumn Fes チケット参加者: 142名 ・彦根市レンタサイクル利用(2020/1/1～12/31): 駅前 1,446名 京橋 272名 合計 1,851名 ・鉄活協キャンペーン参加者: タオル配布:500名 	10,976

	<p>～12/15(ノベルティ作成・配布) ・びわこ湖東路観光協議会湖東 周遊促進事業「KOTOSPOT」 2020/11/1 ～ 12/31 (～ 2021/3/31 まで) (プログラム企 画運営)</p>				<p>ボトル贈呈:185名 ・KOTOSPOT 参加者 (11/1～12/31): 318名</p>	
五環カフェ・五環ワークショップ企画運営事業	イベント中止により未実施。	通年	県内	1名	その他:0名	0
その他事業・総務部	雇用維持および役員体制の整備。	通年	県内	2名	休業手当受給者: 6名	2,594

令和2年度 活動計算書

令和2年 1月 1日から 令和2年12月31日まで

特定非営利活動法人 五環生活
(単位：円)

全事業所

[経常収支の部]

【経常収入】

事業収入 (非課税)	1,121,530
事業収入 (課税対象)	12,556,345
委託金収入	8,838,532
給付金収入	3,953,210
休業手当負担金収入	2,869,092
補助金収入	950,000
雑収入	278,458
受取利息収入	29

経常収入 計

30,567,196

【事業費】

期首棚卸高	198,673
期首商品・製品棚卸高 計	198,673
外注費	4,712,118
諸謝金 (事業)	7,125,889
通信費 (事業)	379,107
荷造運賃 (事業)	72,911
旅費交通費 (事業)	1,169,412
広告宣伝費 (事業)	112,584
備品消耗品費 (事業)	1,619,501
新聞図書費 (事業)	41,284
印刷経費 (事業)	442,431
修繕費 (事業)	87,408
車両維持費 (事業)	205,444
保険料 (事業)	173,280
租税公課 (事業)	966,800
貸借料 (事業)	126,900
支払手数料 (事業)	30,591
振込手数料	10,450
給料手当	7,904,017
法定福利費	1,398,341
雑費 (事業)	844,679
当期事業費 計	27,423,147
合計	27,621,820
期末棚卸高	△ 47,266
期末商品・製品棚卸高 計	△ 47,266
事業費 計	

27,574,554

【管理費】

給料手当	1,031,400
通信費	51,868
水道光熱費	24,230
修繕費	115,120
地代家賃	531,600
保険料	122,560
諸会費	37,000
支払手数料	3,080
管理諸費	81,400
支払利息	5,063

管理費 計

2,003,321

経常収支差額

989,321

当期正味財産増加額

989,321

前期繰越正味財産額

1,616,804

当期正味財産合計

2,606,125

令和2年度 貸借対照表

令和2年 1月 1日から 令和2年12月31日まで

特定非営利活動法人 五環生活

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	1,539,207
現 金	713,627	前 受 金	3,252,253
ゆうちょ口座	48,618	未払消費税	419,400
普通預金りそな	86,470	納税充当金	248,352
普通 預金(彦根支店)	5,017,937	流動負債 計	5,459,212
現金・預金 計	5,866,652	【固定負債】	
(売上債権)		長期借入金	100,000
未 収 金	2,236,544	固定負債 計	100,000
売上債権 計	2,236,544	負債の部合計	5,559,212
(棚卸資産)		正 味 財 産 の 部	
棚卸 資産	47,266	【正味財産】	
棚卸資産 計	47,266	正味 財産	2,606,125
(その他流動資産)		(うち当期正味財産増加額)	989,321
前払 費用	14,875	正味財産 計	2,606,125
その他流動資産 計	14,875	正味財産の部合計	2,606,125
流動資産合計	8,165,337		
資産の部合計	8,165,337	負債・正味財産の部合計	8,165,337

財産目録

令和2年12月31日

特定非営利活動法人 五環生活

(単位：円)

《資産の部》	
【流動資産】	
(現金・預金)	
現金	713,627
ゆうちょ口座	48,618
普通預金りそな	86,470
普通預金(彦根支店)	5,017,937
現金・預金計	<u>5,866,652</u>
(売上債権)	
未収金	2,236,544
売上債権計	<u>2,236,544</u>
(棚卸資産)	
棚卸資産	47,266
棚卸資産計	<u>47,266</u>
(その他流動資産)	
前払費用	14,875
その他流動資産計	<u>14,875</u>
流動資産合計	<u>8,165,337</u>
資産の部 合計	<u>8,165,337</u>
《負債の部》	
【流動負債】	
未払金	1,539,207
前受金	3,252,253
未払消費税	419,400
納税充当金	248,352
スタッフ源泉所得税	(248,352)
流動負債計	<u>5,459,212</u>
【固定負債】	
長期借入金	100,000
固定負債計	<u>100,000</u>
負債の部 合計	<u>5,559,212</u>
正味財産	<u>2,606,125</u>